

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
中日本航空専門学校		昭和57年4月1日	安藤 弘治		〒501-3924 岐阜県関市迫間字吉田洞1577-5 (電話) 0575-24-2521		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人神野学園		昭和40年2月18日	山田 弘幸		〒460-0001 名古屋市東区泉1丁目23番37号 (電話) 052-971-6161		
目的	本校は、教育基本法、学校教育法及び航空関連法規に従い、航空に関する専門の知識及び技術を教授し、併せて豊かな人間性を涵養し、航空業界を始めとする各種産業界に有用な実践力に富む人材を輩出することを目的とする。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程		航空整備科 航空電子コース		平成22年11月29日 文部科学省告示	-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間		2785	1605	90	1090	0
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150人		131人		12人	31人	43人	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、100～80点を優、79点～70点を良、69点～60点を可、60点未満を不可とし、優良可を合格とし、不可を不合格とする。 評価方法は、筆記試験または、レポート、実技試験、成果物等により行う		
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月10日～8月26日(一斉) 各々の教育スケジュールに応じて前後の期間を休暇期間として設定。 ■冬季:12月25日～1月6日 ■春季:4月1日～4月6日			卒業・進級条件	学則第6章第20条 別紙第1-1に定める教育課程の科目を履修し、卒業に必要な時数を修得した者に対し、校長は部科長会の議を経て卒業を認定する。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 個別面談、保護者面談、三者面談等			課外活動	■課外活動の種類 航専祭、スポーツ大会、校外研修(企業見学等) ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 飛行機やヘリコプターを運航している企業またはエアライン系列の機体・エンジン・装備品の整備専門会社 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成29年度卒業者に関する平成30年3月31日時点の情報)			主な資格・検定等	航空特殊無線技士 第2級陸上無線技士 有機溶剤作業主任者 情報活用検定 ITパスポート デジタル技術検定 技能検定電気機器組立(シーケンス制御作業) 航空無線通信士、 ガス溶接技能者 実用英語技能検定 TOEIC		
中途退学の現状	■中途退学者 7名 平成29年4月1日時点において 在学者 550名 平成30年3月31日時点において 在学者 543名 * 入学後にコース分けがあるため、学科全体にて算出。 ■中途退学の主な理由 進路変更、健康上の理由、経済上の理由など ■中退防止のための取組 担任制、臨床心理士によるカウンセリング対応、保護者会			中退率	1.2% (平成29年4月1日入学者を含む) (平成30年3月31日卒業者を含む)		
ホームページ	URL: http://www.cna.ac.jp/						

※1・・・「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいう。(「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。)

※2・・・「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。(「学校基本調査」の定義による。)

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行ない、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)に活かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

企業関係者などの外部役員と中日本航空専門学校で意見交換を行い、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
中満 悦郎	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長	1年	①
重松 則夫	朝日航洋株式会社 航空事業本部東日本航空支社 副部長	1年	③
中山 良博	川崎重工工業株式会社 航空宇宙カンパニー 技術本部 技術開発本部 材料技術課 課長	1年	③
杉山 誉	ANA中部空港株式会社 総務部 人事課 課長	1年	③
安藤 弘治	中日本航空専門学校 校長	1年	校長
亀井 裕一	中日本航空専門学校 副校長	1年	学校職員
小林 泰広	中日本航空専門学校 事務局長	1年	学校職員
浅井 隆司	中日本航空専門学校 学生部 部長	1年	学校職員
中村 寿志	中日本航空専門学校 航空整備科 学科長	1年	学校職員
三木 陽一郎	中日本航空専門学校 航空生産科 学科長	1年	学校職員
濱田 実	中日本航空専門学校 エアポートサービス科 学科長	1年	学校職員
幸地 隆	中日本航空専門学校 就職キャリア支援センター長	1年	学校職員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成30年7月24日

第2回 平成30年12月11日

*年2回開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

本校で策定した教育課程について各委員の意見、見識を伺い、授業や今後の教育課程の編成に反映させている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育内容に関するノウハウや最新技術の情報、技術指導などを受けることができる企業と連携して実践的な実習・演習等の授業を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

関連業務に携わる技術者の方に教官として来ていただき、実習を行っている。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
電子機器CAD実習Ⅰ	電気製図で修得した製図の基礎知識を生かし、JISに基づいた、電気・電子関係の作図や製図を2次元CAD(AutoCAD)を用いて、迅速かつ正確に作図する技術を修得する。また、AutoCADオペレータ技能検定試験の合格を目指す。	株式会社ロジックソリューションズ
電子機器CAD実習Ⅱ	2年次で修得したコンピュータを使用した基本的な設計能力に加え、設計・製造現場で主流となっている3次元に取り組み、企業での実務に対応できる3次元CAD設計能力を習得する。	株式会社ロジックソリューションズ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

現在担当している教育又は将来担当する教育に関する知識、技術、技能の習得・向上や授業改善、学生指導などに関する研修を組織的に行い教員の資質の向上を図る。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

航空関連企業や各種関連企業、各種関連団体が主催する研修に参加し、専攻分野における知識や技術を習得している。主に、3DCAMソフトや工作機械の操作法や、電子制御に関わる研修に参加し授業内容に反映している。

②指導力の修得・向上のための研修等

本学園主催 FD(ファカルティ・ディベロップメント)研修や平成30年3月に担任指導力向上研修等を実施した。一般財団法人職業教育・キャリア教育財団岐阜県支部委員会主催 教員研修 等に参加した。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

適宜、航空関連企業や各種関連企業、各種関連団体が主催する研修に参加し、専攻分野における知識や技術を習得する。

②指導力の修得・向上のための研修等

本学園主催 FD(ファカルティ・ディベロップメント)研修(法人本部にてテーマを設定して研修を行う)一般財団法人職業教育・キャリア教育財団岐阜県支部委員会主催 教員研修 等に参加し指導力の向上を図る。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、教育活動その他の学校運営の状況に係る自己点検・自己評価報告書に基づき、個別に取り組み状況を説明し、聞き取り調査を行い活かす

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・人材育成
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※評価項目詳細については別紙自己評価報告書に記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教育活動その他の学校運営の状況に係る自己点検・自己評価報告書に基づき、学校運営が適正に行われているかを評価いただき、各委員の意見、見識を伺い、今後の学校運営に反映させている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
中満 悦郎	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長	1年	企業等委員
今井 信治	教育後援会 理事	1年	学校外部団体
酒井 雅敏	田原みらいづくり協議会 顧問	1年	企業等委員
中橋 佳彦	株式会社ニューテンサン 製造部部长	1年	企業等委員
江口 健治郎	岐阜県立岐阜工業高等学校 校長	1年	企業等委員
安藤 弘治	中日本航空専門学校 校長	1年	校長
亀井 裕一	中日本航空専門学校 副校長	1年	学校職員
小林 泰広	中日本航空専門学校 事務局長	1年	学校職員
中村 寿志	中日本航空専門学校 航空整備科学科長	1年	学校職員
三木 陽一郎	中日本航空専門学校 航空生産科学科長	1年	学校職員
濱田 実	中日本航空専門学校 エアポートサービス科学科長	1年	学校職員
名塚 秀一	中日本航空専門学校 就職キャリア支援センター長	1年	学校職員
浅井 隆司	中日本航空専門学校 学生部 次長	1年	学校職員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページにて毎年10月ごろ公表

<http://www.cna.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育及び学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や取組の適切さ等について自己評価を行うとともに、保護者、地域住民、関連団体等により構成された委員による学校関係者評価委員会において公表し、自己評価について客観性・納得性を高める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・目的・人材育成
(2) 各学科等の教育	教育活動・教育環境
(3) 教職員	学校運営・教育活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生支援・学生の受入れ募集
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	法令等の遵守・学校関係者評価報告
(10) 国際連携の状況	国際交流
(11) その他	法令等の遵守・社会貢献・地域貢献

※評価項目詳細については別紙自己評価報告書に記載。

(3) 情報提供方法

ホームページにて毎年10月ごろ公表

<http://www.cna.ac.jp/>

授業科目等の概要

工業専門課程 航空整備科 航空電子コース 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			人間学 I	企業が求めている人材は、専門知識、技術、資格を習得しているのみでなく、それを生かすことの出来る社会人の常識とマナーを身につけた人間性豊かな自ら考えることの出来る技術者である。本校の教育理念「技術者たる前に良き人間たれ」に基づき、社会人として不可欠なマナー・主体性・思考力・表現力等を身につけることを目的として、必要な社会規範・知識の習得と、その応用訓練を行う。	1 通	20	1	○			○		○			
○			英検演習 I - 1	企業に就職する際に求められる資格の一つとして重要視されている。中学、高校からの基礎的な英文法を再確認し、過去問、予想問題で資格取得を目指す。	1 前	30	1		○		○				○	
○			英検演習 I - 2	企業に就職する際に求められる資格の一つとして重要視されている。中学、高校からの基礎的な英文法を再確認し、過去問、予想問題で資格取得を目指す。	1 後	30	1		○		○				○	
○			航空法規等 I	航空電子技術者として航空法規及び人間の能力と限界に関する一般知識について学び、必要な知識を習得する。	1 通	75	5	○			○				○	
○			航空力学 I	航空電子技術者として必要な流体力学の基礎、航空機の飛行原理および空力特性等の航空力学の基礎知識を習得する。	1 通	60	4	○			○				○	
○			機体 I	航空電子技術者として必要な航空機の構造、各系統及び構成部品を学び知識を習得する。航空電子技術者として必要となる、材料に作用する応力と歪み、はりに働く曲げモーメントとせん断力及びトラスに作用する荷重とそれらの基礎的な計算並びにレバー・リンク機構の概要について学ぶ。航空電子技術者として必要な航空機に使用されている材料の種類及び特徴、材料試験及び検査の基礎知識を習得する。	1 通	120	8	○			○				○	
○			電子装備品等 I A	航空機には電気電子機器が多く使用されており、これらを理解するために、電気・電子の基礎及び航空機の電気部品・装備品の原理・構造・機能について習得する。	1 通	120	8	○			○				○	
○			電子装備品等 I B	航空機の中樞神経の役割を果たす航空計器及び電子装備品の構造、機能、指示原理を学ぶ。	1 通	120	8	○			○				○	
○			電気工学 I	電子コースにおける専門基礎のひとつである電気工学を、講義と演習で構成するプログラム学習により習得する。本科目では、直流編、磁気・静電気編にわたり詳細な説明を行う。また、電子機器、制御系の具体例の把握、実験実習等との関連を重視し、電気工学基礎の実践的学習を進める。	1 後	60	4	○			○				○	
○			デジタル電子回路	デジタルの基礎とデジタル制御の概念を理解し独自で小規模回路の設計が出来るようにする。デジタル技術検定試験3級の資格取得を目指す。	1 後	30	2	○		△	○				○	
○			情報処理システム I	現代情報化社会ではパソコンがあらゆる局面で使用されており、情報を活用するスキルは必須となっている。本科目では、コンピュータ技術を「情報を活用する」という観点から、社会人として必要な基礎知識を習得する。又、本スキルを評価するJ検(情報活用試験)2級以上の資格取得を目標に授業を進める。	1 後	60	4	○			○				○	

授業科目等の概要

工業専門課程 航空整備科 航空電子コース 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等と の 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			基本実習Ⅰ	前期は各コースの共通教育として機械計測、締結法、リベット、表面処理の一般事項について学習する。後期では、航空工場整備士実地試験要領に基づき、電気工作、ホース・チューブの内容について知見を得るとともに、実技により作業技術を習得する。電気電子工作実習については、電子部品の名称、形状及び特徴を理解する。はんだ付けの重要性と技術を習得する。回路製作の基礎を学び、電気・電子回路の基本動作を理解する。また、実習作業を通して、電気工作用工具の正しい使い方及び工作手順を習得する。	1 通	176	4	△	○	○	○				
○			電気計測実習	電気計測は、電気電子分野の基本となる技術であり、電気電子技術者の専門基礎として習得しておくことは重要である。計測の目的と重要性を認識すると共に、計測器を使用する時の取り扱い上の留意事項ならびに安全作業に必要な事項を学ぶ。	1 後	60	1	△	○	○	○				
○			人間学Ⅱ	企業が求めている人材は、専門知識、技術、資格を習得しているのみでなく、それを生かすことの出来る社会人の常識とマナーを身につけた人間性豊かな自ら考えることの出来る技術者である。本校の教育理念「技術者たる前に良き人間たれ」に基づき、社会人として不可欠なマナー・主体性・思考力・表現力等を身につけることを目的として、必要な社会規範・知識の習得と、その応用訓練を行う。	2 通	20	1	○		○	○				
○			英検演習Ⅱ－1	英検演習Ⅰに引き続き、中学、高校からの基礎的な英文法を再確認し、過去問、予想問題で資格取得を目指す。	2 前	30	1		○					○	
○			実用英会話Ⅰ	英会話の基礎的な文法の理解を深め、語彙力を高め、就職先で求められるビジネス会話能力、知識を身につける。また、リスニング能力も高める。	2 後	30	2	○			○			○	
○			スキルアップセミナーⅠ	就職活動が本格的にスタートするまでに習得しておくべき就職活動への取組方から就活基礎力(ライティング、履歴書作成、面接等の能力)について企業側の観点から教育する。	2 通	60	4			○	○		○		
○			電子回路技術	電子回路技術は全ての電子機器に使用されており、航空電子機器に携わる技術者にとって電子回路技術を理解することは必要不可欠な要素となっている。本授業では、アナログ回路やデジタル回路を構成する電子部品の構造・特性から基本回路の動作原理まで、航空電子機器の基本技術を習得する。又、本スキルを評価するデジタル技術検定試験3級以上の資格取得を目標とする。	2 通	60	4	○			○			○	
○			マイコン技術Ⅰ	マイコンは今やありとあらゆる製品に使用されており、航空電子機器に携わる技術者にとってマイコン技術を理解することは必要不可欠な要素となっている。本授業では、マイコンのしくみ・動作原理からプログラミング(C言語)まで、マイコンのハード・ソフトの基礎技術を習得する。	2 通	120	8	○	△	○				○	
○			情報処理システムⅡ	現代情報化社会ではパソコンがあらゆる局面で使用されており、情報を活用するスキルは必須となっている。本科目では、コンピュータ技術を「情報を活用する」という観点から、情報システムⅠから更にステップアップし、企業人として必要な基礎知識を習得させる。又、本スキルを評価するITパスポートの資格取得を目標に授業を進める。	2 前	30	2	○			○			○	
○			ソフトウェアⅠ	実業務では、いろいろなデータ処理を簡単に実現できるエクセルが頻繁に使用される。本科目では、エクセルを使って更に複雑な処理を簡単に実現できるVBA(Visual BASIC for application)を使用した各種のデータ処理方法を幅広く学ぶことにより、プログラミングの基礎を習得する。	2 通	60	4	○			○			○	
○			制御システムⅠ	電子関連科目を踏まえた実践的なシーケンス制御の授業をします。リレーシーケンス制御をはじめ、実社会で活用されているトレーニングソフトウェアを使った、シーケンスプログラミング手順・構築方法などを習得します。	2 後	60	4	○			○			○	

授業科目等の概要

工業専門課程 航空整備科 航空電子コース 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			電子回路CAD	電子回路CADは回路図を入力して回路動作のシミュレーションを行うものであり、電子機器が正しく動作するか製作する前に検証するために使用する。IT化の時代、高品質で効率的な設計を行うためには、電子系技術者にとってこの操作を習得することは必須である。ここでは代表的な電子回路CADであるOrCADの基本操作を習得する。	2前	30	2	○			○	○			
○			電子機器製造技術	航空宇宙用電子機器が実際の現場でどのように製造されているかを知る機会が少ない。本授業では、同電子機器の開発工程から現場における設計・製造について幅広く紹介し、将来、技術者・技能者・整備者として必要な電子機器(アビオニクス)に関する基礎知識を習得する。	2後	30	2	○			○		○		
○			航空機実習Ⅰ	ビーチクラフト式E33型機の空調・操縦系統の分解、組立てについて学び、一部のシステムについてはセスナ式310型機を用いて理解を深める。これにより航空機全般の知識を習得する。ベル式206型機を使用し地上取扱いを通してヘリコプタの概略を知る。	2通	100	2			○	○		○		
○			加工実習	電気・電子部品の名称と用途を理解し、はんだ付けの重要性と基本作業技術について学び、電気電子回路製作を体験し、回路構成を理解する。コンピュータ数値制御システムのプログラミング(フライス盤・)について学び、NC工作機械による切削加工を体験する。	2通	120	3			○	○		○		
○			アビオニクス実習Ⅰ	1年時に学んだ電子装備品ⅠA及び電子装備品ⅠBでの学習内容を実機(B777CBTとFlight Simulatorを含む)の当該系統に結び付けて理解させることにより下記の基礎知識を定着させる。 ①各系統の概要、目的、主要部品の構成 ②主要部品の取り付け位置 ③各系統の機能及び作動と操作	2通	120	3	△		○	○		○		
○			電子機器CAD実習Ⅰ	近年産業界ではCADを導入する企業が増加しており、業務上で必要とされる技術・技能となっている。JISに基づいた機械図面、電気電子関係図面を2次元CAD(AutoCAD)を用いて、迅速かつ正確に作図する技術を習得する。また、CAD利用技術者試験2級又は基礎の資格を取得することを目標に、それに必要なCADシステムや製図の知識を学習する。	2通	90	2			○	○		○	○	
○			人間学Ⅲ	企業が求めている人材は、専門知識、技術、資格を習得しているのみでなく、それを生かすことの出来る社会人の常識とマナーを身につけた人間性豊かな自ら考えることの出来る技術者である。本校の教育理念「技術者たる前に良き人間たれ」に基づき、社会人として不可欠なマナー・主体性・思考力・表現力等を身につけることを目的として、必要な社会規範・知識の習得と、その応用訓練を行う。	3通	20	1	○			○		○		
○			航空技術英語	航空整備士、航空技術者にとって必要な英文ベンダー・マニュアルの読解力を養うとともに、その構成基準を理解する。	3後	30	2	○			○		○		
○			実用英会話Ⅱ	実用英会話Ⅰに引き続き、さらに実用的な英会話、リスニング力、ビジネスで役立つ英語力を身につける。	3通	60	4	○			○		○		
○			スキルアップセミナーⅡ	会社で働くためには、基礎学力(読み、書き、計算、ITスキル)や専門知識(仕事に必要な知識、資格)以外に、社会人としての基礎力(仕事をする上で必要となる自主性、問題解決能力、チームワーク等)が必要となります。ここでは、卒業までに習得すべき社会人としての基礎力について企業側の観点から教育する。	3通	60	4	○			○		○		
○			マイコン技術Ⅱ	マイコンは今やありとあらゆる製品に使用されており、航空電子機器や一般電子機器に携わる技術者・技能者にとってマイコン技術を理解することは必要不可欠な要素となっている。本授業では、電子機器に内蔵されるマイコン制御システムを構築する時に必要となるインターフェース(ハード・ソフト)の基礎技術を習得する。	3前	30	2	○		△	○		○		

授業科目等の概要

工業専門課程 航空整備科 航空電子コース 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			ソフトウェアⅡ	HTML言語の基礎を学び、中日本航空専門学校ホームページを作成出来るようにしたのち、この応用として卒業研究にも役立つ電子掲示板の基礎について学ぶ。また企業におけるソフトウェア開発の手法、実際についても学習する。	3前	60	4	○		△	○		○			
○			制御システムⅡ	2年次の電子関連科目を踏まえた実践的なシーケンス制御の授業をします。リレーシーケンス制御をはじめ、実社会で活用されているトレーニングソフトウェアを使った、シーケンスプログラミング手順・構築方法などを習得します。	3前	60	4	○			○			○		
○			電子機器整備技術	航空宇宙用電子機器が実際の現場でどのように修理されているかを知る機会は少ない。本授業では、電子機器の故障部位特定から部品交換までの修理実習を経験し、将来、技術者・技能者・整備者として必要となる電子機器(アビオニクス)に関する整備(修理)の基礎スキルを身に付ける。	3通	120	8	○			○				○	
○			航空機実習Ⅱ	・ビーチクラフト式E33型機の防除氷および発動機(ピストンおよびガスタービン)について学び、一部のシステムについては整備作業を経験し理解を深める。これにより航空機全般の基礎知識を習得する ・ベル式206型機を使用し推進、油圧システムの概要を学び、地上取扱いを通してヘリコプターの概要を知る。	3通	80	2			○	○			○		
○			電子機器CAD実習Ⅱ	近年、設計製造企業では3次元CADを用いて、設計業務や生産技術業務を遂行できる人材が求められている。 2年次で修得したコンピュータを使用した基本的な設計能力に加え、設計・製造現場で主流となっている3次元設計に取り組み、企業での実務に対応できる3次元CAD設計能力を習得する。	3後	60	1			○	○				○	○
○			アビオニクス実習Ⅱ	航空機において、現在無くてはならないアビオニクス機器の理解と大型機のシステムの理解を目的とする。アビオニクス関連機材の実習教育により電子・アビオニクスシステムの基礎知識を習得する。ベンチテストセットおよび航空機フライトシミュレータでのシステム実習も行い理解を深める。	3通	104	2			△	○	○			○	
○			卒業研究	航空電子コース3年間の集大成として、グループで作品の企画から制作(設計・製造・検査・試験)、プレゼンテーションまで取り組み、在学期間中に得た知識の取得技術に対する応用力の付与、技術者としての自立心の育成を目指す。	3通	180	4				○	○			○	
合計				40科目							2785時数			133単位		

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。